

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	理学療法学分野
学籍番号	15S3047	院生氏名	橋本祥行
通学キャンパス	大田原キャンパス		
論文題目	回復期脳卒中患者における歩行自立の判定と予測について -歩行自立アセスメントシートと動作レベルスコアを用いて-		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 回復期リハビリテーションを推進するにあたり、より効果的・効率的なリハビリテーション実施のため、歩行自立判定評価と歩行自立予測について検討することを主な目的とした研究である。</p> <p>研究1で歩行自立アセスメントシートの導入効果の検討し、研究2にて回復期初発脳卒中片麻痺患者の退院時歩行自立を予測する因子の検討、研究3で回復期運動器疾患患者の退院時歩行自立を予測する因子の検討を行った。</p> <p>その結果歩行自立予測に関する因子として、起居動作から立位までを総合的に評価できる動作レベルスコアの有用性が示唆されたとの結果であった。</p> <p>副論文については、審査開始時に、刊行すみの論文1編を確認した。</p> <p>2. 審査会は第1回を12月12日に開催した。そこでの主な指摘は、3つの研究のつながりや位置づけが不十分であるため、研究全体の目的が不明確となっていること。新規性・独創性に対する記述が不十分であること。専門用語の説明が必要な部分があること。対象者の除外基準を追記する必要があること。研究に使用した独自開発の動作レベルスコアに関し、その内容を提示する必要があることなどであった。これらの項目について修正を求め、1月5日に論文が再提出された。その論文をもとに1月11日に再度審査会を開催し、各指摘事項に関して適切に追加・修正がなされたことを確認したが、新規性と今後の展望に対する記述を明確にすることなど修正への指摘があった。そのため1月15日に再提出し、全ての項目の修正がなされたことを確認した。</p> <p>3. 論文の口頭発表において明瞭な発表を行い、審査での試問においては方法論上での疑問点、結果の解釈の妥当性などについての質問に的確に答え、指摘された部分については真摯に対応した。</p> <p>4. 以上の結果から、審査委員全員は本人が学位申請論文の内容および関連事項について十分な学識を有しており、本論文が著者に博士(保健医療学)の学位を授与するに十分であるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査	石井 博之	
	副査	丸木 一成	
	副査	堀本 ゆかり	